

平成29年度 飛騨地学研究会野外巡検

高原川流域の岩石と地質



地理院地図 (HP) に加筆

【日時】平成29年7月30日 (日) 午前9時集合

【集合地】国府文化交流センター駐車場

【日程】国府文化交流センター → ①球顆流紋岩 (十三墓峠) → ②仏岩 →
9:00 9:30 ~10:10 10:20~10:40

③杖石 (細越) → 道の駅 → ④福地化石館 (昼食、福地山登山道)
11:00~11:10 11:20~11:40 11:50~13:30

⑤北アルプス自然文化センター (平湯) → 国府文化交流センター (平湯経由)
13:50~14:30 15:30

①球顆流紋岩

高山市国府町の十三墓峠（大坂峠）頂上付近に、「球顆流紋岩」が崖を作って「います。この岩石は「大雨見山層群」とよばれる火山岩類の一部です。

球顆とは、溶岩が急冷するときに石英やカリ長石などの鉱物が球状に成長してできる組織です。この球顆の中に青灰色の玉ズイが混じっています。青灰色の玉ズイは、溶岩が固結した後に、熱水の作用で、ケイ酸（ SiO_2 ）が石英の微小な結晶となってすき間に集まったものです。

大雨見山層群は、峠の東5 kmの大雨見山を中心に約 100 平方 km の範囲に分布します。凝灰岩や溶岩（流紋岩、安山岩）、火砕流堆積物からなる地質です。大雨見山層群は、下部の湖成層の花粉化石から、約 6600 万～6000 万年前に噴出した火山に伴う地質であることがわかりました。この年代は、中生代白亜紀末から新生代古第三紀であり、恐竜が滅んで、哺乳類の時代に移り変わる頃です。

（小井土、2011 を参考）

②石仏

石仏は、十三墓峠の球顆流紋岩につながる岩石が、風化に伴って仏様の姿になっているため、古くから信仰を集めてきました。石仏という地名にもなっています。

この仏像に似た石仏は、高さが 12m あります。石仏に続いて、右側へ、鏡岩、仏器岩、屏風岩などと続きます。

石仏の台座の祠の下の岩石を見ると、玉ズイを含む岩石の塊となっていて、先程の球顆流紋岩であることがわかります。

仏岩の下部は、手取層という堆積岩の地層です。中生代白亜紀、恐竜の時代の地層で、福井県から岐阜県、富山県に分布します。

（梶田、1980 を参考）

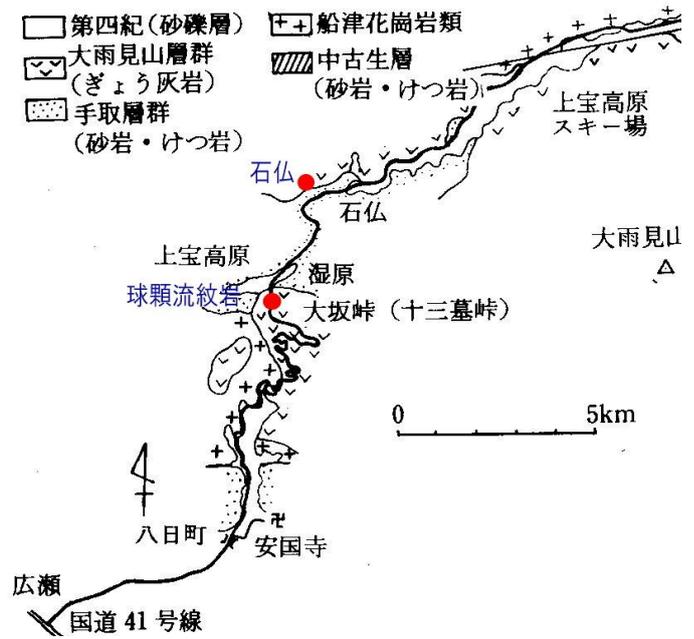


図1 十三墓峠、石仏付近の地質案内図
（梶田、1980 に加筆）



写真1 球顆流紋岩の崖

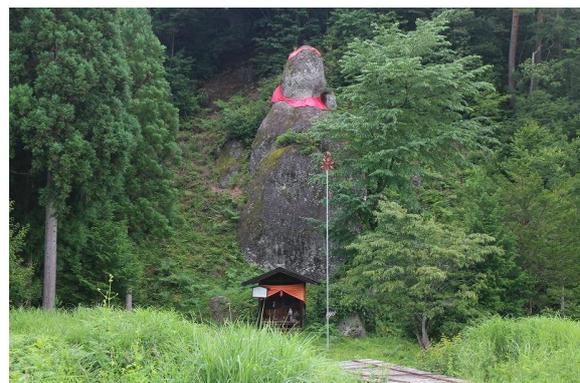


写真2 石仏

③杖石

十三墓峠を本郷まで下り、高原川に沿って細越まで進むと、巨大な塔のような岩柱があります。この岩柱は、高さ70m、周囲250mあり、弘法大使の伝説に因んで「杖石」といいます。杖石の頂上には、弁財天が祭られており、参拝すると良縁が授かるといわれています。

杖石をつくる岩石は、大雨見山層群を構成する明ヶ谷溶結凝灰岩層です。溶結凝灰岩は、火山噴火とともに放出された火山砕屑物が、自重と熱により溶けて再び固まった岩石です。西側からの尾根の先端が高原川の侵食に抗して残り杖石となりました。

(ホームページ：岐阜県地質図「ジオランドぎふ」を参考)

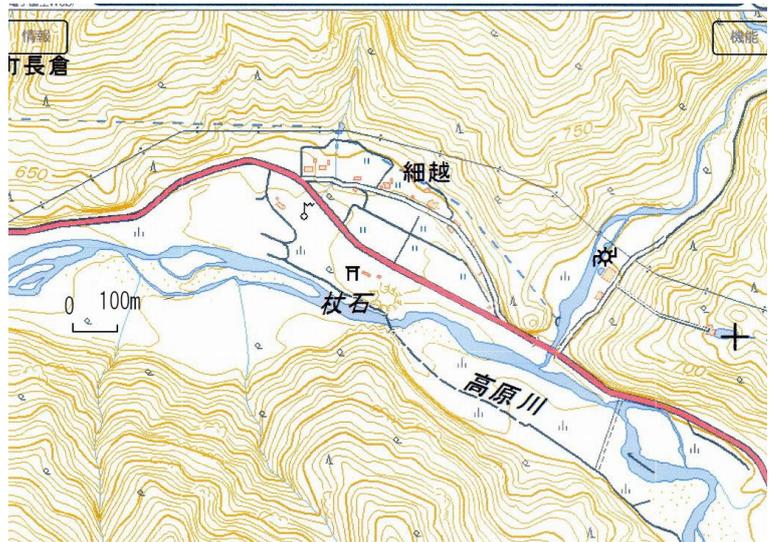


図2 杖石付近の地形図（地理院地図より）



写真3 杖石

昔、弘法様っていうえらいお坊さんが、仏の道をといて、山奥の人々の心を治めようと、はるばる越中の国から、高原川をさかのぼって、この郷へおはいりになったんじゃないかな。おりからの雨で、けわしい山道は上ったり下ったりで、ひどう難儀されたんじゃないかな。

——細越まで来ると、辺りの美しさに見とれてしまい、立ちすくんだまま、しばらくの間、景色を眺めてござったが、「わしには、この杖も、もういらぬようになった。この杖も道行く困った人に、しんぜよう。」と、地にたてたままで、その場をたちさられたそう。——その杖は、ある日、みるみる大きゅうなって、いま見るような、大きな岩となったそう。（「かみたからの昔ばなし」上宝村教育委員会より）

④福地の化石と福地化石館

奥飛騨温泉郷の福地は、日本でも有数の化石産地です。福地の西側の福地山トレッキングコースを登ると、古生代の中頃に当たるデボン紀の化石を観察できます。この付近の地質を「福地層」といいます。

福地層は、ほとんど石灰岩で構成され、サンゴ礁の広がる浅い海で形成されました。福地層では、当時のサンゴ礁の重要な生物であった「層孔虫」と呼ばれる海綿の中間の化石が多く見られます。この他、蜂の巣サンゴ類、日石サンゴ類、三葉虫の化石も見つかっています。

福地にある昔話の里に「福地化石館」があります。故山腰悟氏が、開館した「ひだ自然館」を、地元で引き受け、民家の中が化石館となっています。ここでは、福地で算出したすばらしい化石が多く展示され、岐阜県の文化財に指定されているものもあります。

(小井土、2011 を参考)

⑤飛騨北アルプス自然文化センター

中部山岳国立公園を中心に、奥飛騨の自然と生活文化を展示解説しています。飛騨山脈の地形や地質、動物や樹木など、実物や模型を使ってわかりやすく展示しています。

【参考文献】

梶田澄雄 編 (1980):「岐阜の地質をめぐって」、築地書館

小井土由光 編 (2011):「みのひだ地質 99選」、岐阜新聞社

【参考ホームページ】

岐阜県地質図、ジオランドぎふ

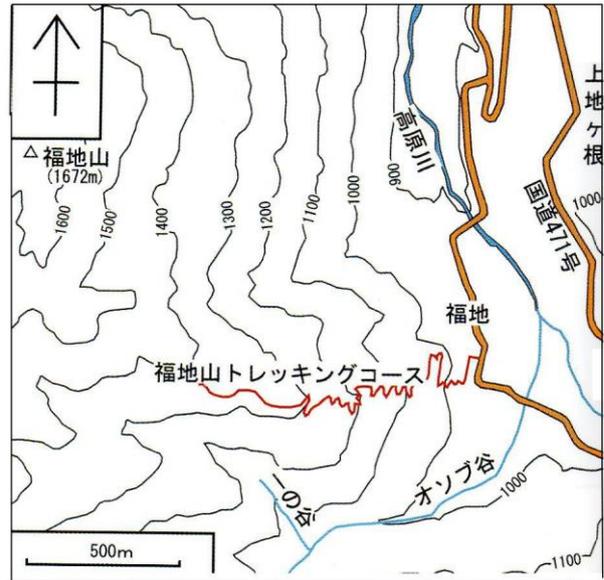


図3 福地付近の案内図 (小井土、2011)

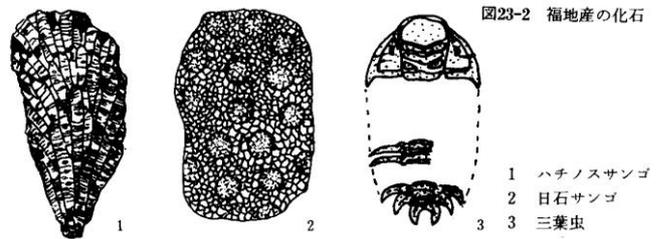


図4 福地産の化石 (梶田、1980)



写真4 福地山トレッキングコース